

はじめに

熊野町は、大正7年に町制を施行し、平成30年10月1日に100周年を迎えました。

本書は、熊野町町制施行100周年にあたり、「熊野町の伝説、民話を絵本にしてみよう」との呼びかけに集まった町内の小学生13人で結成した「くまのの絵本作り隊」による力作です。

「くまのの絵本作り隊」の活動は、絵本の題材を求め、熊野町の歴史、文化財、民話を見聞きすることから始まりました。それから、お話の構成、コマ割り、絵を描く作業と約半年間の期間をかけ3冊の絵本が出来上がりました。

この絵本を手にする未来の子どもたちが、「ふるさと熊野」への興味・関心を深め、熊野町を誇りに思ってくれたらと切に願っております。

今回の絵本の作成にあたり、真摯にご指導、ご助言くださいました広島女学院大学神野正喜教授をはじめ、サポートしてくださった広島女学院大学関係者のみなさん、そして「くまのの絵本作り隊」のみなさんに、心からお礼を申し上げます。

平成30年10月

熊野町長 三村 裕史

.....

熊野町には、筆づくりや、昔から語り継がれてきた伝説、言い伝えなど、郷土の貴重な財産がたくさんあります。

この度、「くまのの絵本作り隊」に参加した小学生が、それらの貴重な財産を書物として後世に残すため、絵本を作成してくれました。

子どもたちは、講師の先生の指導を受けながら、絵本作りについて学び、フィールドワークを行ったり、図書館で昔の生活などを調べたりしました。絵本作りという初めての体験に悪戦苦闘しながらも、仲間と力を合わせ、一生懸命に取り組み、絵本を完成させていく姿に、子どもたちの成長を見ることができました。

「ふるさと熊野」を愛する町内の子どもたちが作成した絵本が、多くの人たちに愛され、読み継がれていくことを願っています。

平成30年10月

熊野町教育委員会教育長 林 保